



「若者に不戦非核の願いを引き継ぐ集い」

テーマ：戦争の記憶から今を考える

日時：25年8月31日（日）14：30～16：30

所：飯田橋セントラルプラザ AB 会議室

はじめの言葉：森本輝徳（核兵器を無くす日本キャンペーン）

I. 戦争経験者からの話

1. 上蔵博（93）

- 昭和19年8月23日午後、全校生徒が校庭に集まり4～6年生の**集団疎開**の見送りの会が行われた。父兄たちが両国駅で見送る中、房総半島富津市に疎開した。食糧難だったが、婦人会の方が大変良くしてくれた。
- 同級生がトイレから帰り、「**東京の方の空が真っ赤だぞ**」と言った。4、5日たって父が迎えに来て帰省すると都内は焼け野原だった。蔵の姉の家に行ったが、**度々空襲**に遭い、大芝に疎開した。
- 77歳ごろから戦災のこと**を話し始め、現在は若者の芸術鑑賞プレゼンに協力している。

2. 平田道正（89）

- 広島で9歳時に爆心から2km地点で**被爆**した。核のタブーの国際現場で証言していた先輩に誘われ話をすることになった。それについては、前回話したので今回は**核問題の現状**を話したい。
- 一触即発の核兵器。トランプ大統領は違反している。**深川9条の会**の方のお誘いで参加し始めた。
- 2024年**ノーベル平和賞**は被団協の**被爆者の被爆実相証言の継続**に対して与えられたと思う。



ある同級生がトイレから帰ってきて
「東京のほうの空が真っ赤だぞ」って言うんでね

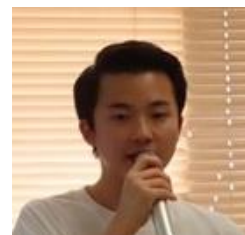


2024年ノーベル平和賞 日本被団協に

核兵器は、壊滅的破壊をもたらす非人道兵器で、廃絶すべきで、その実現に向かって、国内外で被爆の実相を訴えて来た被爆者の証言によって、「**核のタブー（核の不使用）**」の**国際規範**が広がったとして、2024年のノーベル平和賞が、証言をしてきた人々を代表して日本被団協（日本被爆者団体協議会）に与えられた。
ウ・ロ戦争でPutinが核兵器の使用を恫喝し、核のタブーは崩れた



II. 若者トークセッション



元山仁士郎

岡明日佳

木場笑里

横道琳人

中島優希

元山：アメリカの核戦略の研究。シールズで活動。沖縄に戦後はある？良く生きるために学び続ける。

岡：高校生平和大使。グローバルな視点で反対運動を。**白梅学徒の記憶継承**。真実を学び伝えたい。

木場：被爆3世。高校では平和学習部で活動。被爆者視点で核の抑止・戦争を繰り返さないために。

横道：明星学園3年、**高校生平和ゼミナール副代表**。米国の傘があるから平和が保たれているという論理は破綻している。納得がいかない。

中島：東京大空襲・戦災資料センターガイドボランティア。明大で平和を学ぶ。共創みらい事務局。核兵器をなくす日本キャンペーン youth と共創みらい塾の共催で行いました。

III. 交流会「平和をつくるダイアログ」 司会：永井玲衣（哲学者）

- 永井：人びとと考え合い、聞き合う場を各地で開いている。隣り合う5～6人と繋がり、今日のテーマにこだわらず、話し合い、聞き合って共有して欲しい。

- 70人の参加者のそこでの話し合いについてみんなで共有したい。

所感：情熱いっぱいの上蔵さん、平田さんの不戦非核の願いを、若者トークセッションの若者と参加者に引き継ぐ貴重な日になった。戦前に戻したいという政治家もいる中、真実を学び、核を抑止・戦争を繰り返さないという**共創みらいの活動に大きな期待**が広がった。（文責 中瀬）



江東区助け合い活動連絡会 2025 年度第 2 回定例連絡会

日時：2025 年 9 月 4 日（木）13：30～15：00

所：高齢者総合福祉センター 研修室

1. 開会挨拶 吉野義道（助け合い活動連絡会代表）

足元が悪い中、参加頂き感謝したい。

2. 出席者・配布資料の確認 事務局

3. 報告・情報提供

（1）活動報告 小林事務局長

○第 1 回こども・子育て応援団フォーラム：7/6（日）総合区民センターでこうとう親子センターとの共催で開催。100 人を超える参加者。区・社協の後援を得て、区内の多くの団体関係者が集い、交流した。地域の交流の少なさを感じるが、今後とも緩い繋がりを大切にしたい。

○第 18 回研究会：7/25（金）江東区文化センターで「水害避難と助け合い」をテーマに開催。

ビデオ「荒川氾濫」上映と中央大学有川教授の講演の後、中央大学海岸港湾研究室の学生が参加し、WS を行った。有川先生からは、江東区での水害避難の現状と多くの課題が提起され、水害時の避難や備え、地域での助け合いの大切さを再確認した研究会に。今後は荒川氾濫を予測し、垂直避難の推進が現実的だ。地震では学校避難所が使えるが、水害では使えない。電柱地中化は問題が多い。



○第 1 回江東区孤独・孤立対策連携会議：7/18（金）令和 7 年度第 1 回連携会議（プラットフォーム）を開催。区関係課・社協・助け合い活動連絡会関係団体・JKK 住宅事業部等の委員 22 名が参加。今年度の取り組みについて検討。事例報告としてコープ南砂助け合いの会と社協の取り組みが報告され、意見交換した。

○グランドゴルフ in 大島：7/4 第 1 回チャンピオン大会 渡辺氏優勝、第 7 回大会 久保氏優勝

（2）江東区・社会福祉協議会・参加団体からの情報提供

○社 協：社協カフェ：文化観光カフェ：（8/20 砂町、8/27 豊洲、9/17 大島、9/24 森下）

おなか元気教室；（10/15 砂町、10/22 豊洲、11/19 大島、11/26 森下）

まちづくり話し合い広場；11/7（金）；あつまる、つながる、やってみる

サテライト深川北部開設；地域交流スペースとして広く活用して頂きたい。

○参加団体・参加者の活動紹介

- ・南砂住宅団地祭：9/14（日）15：00～18：00；若者中心の企画で開催することになった。
- ・よっちゃん家：毎月イベントを開催し、10 年になった。若い人の参加を増やしたい。
- ・カフェ 06：5 周年アニバーサリー；10/4 社協、UR の支援を頂き大きな広がりになった。
- ・養育家庭（里親）体験発表会：11/28 亀戸文化センター
- ・子ども劇場：9/23 ホットケーキつくって食べよう！；森下 2 丁目住宅集会所
- ・不動産終活支援機構：空き家、山林など相談相手になります！
- ・江東社会福祉士会：9/12 総合区民センター「介護保険 25 年を検証する」
9/5 総合区民センター「気候危機問題」

（3）当面の活動計画、その他

①第 11 回江東区地域福祉フォーラム

〈日時・会場〉 11/27（木）13：30～15：30 江東区文化センター レクホール

〈テーマ〉孤独・孤立を予防する地域プログラム （形式）講演・グループワーク

②2025 江東区ボランティア祭

〈日時・会場〉 11/29 10：00～15：30 江東区文化センター 2 階ロビー

（注）展示希望の団体は、活動案内・ポスター・チラシなどご連絡ください。

4. 閉会： 渡辺恵司副代表

高齢者には脳の活性化になるので、今後とも積極的に参加して欲しい。

所感：超高齢化対策として始まった助け合い活動連絡会も、コロナ禍で対面活動が少なくなったこともあったが、災害大国化する中、水害避難と助け合いなど貴重な学びも生まれてきた。高齢化にも防災にも人と人との繋がりが一番大切との認識が広がっている。若者の企画も生まれてきており、スポーツと人情の江東区が、元気になり助け合いが進むことを祈念したい。（文責 中瀬）